



# くりしま

《本園の教育目標》

- 仲良くできる子ども
- 元気な子ども
- 心の豊かな子ども
- 努力する子ども
- 体を鍛える子ども

《栗島幼稚園ホームページ》

栗島幼稚園

検索



## 『 2021 新しい年の幕開け ～患難の先に希望あり～ 』



園長 矢田 泰久

令和3年(2021)新年おめでとうございます。本年がお子様をはじめご家族の皆様や関係する皆様にとりまして希望に満ちた良き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

昨年から続くコロナ禍の下、世界中の方が厳しい生活を強いられ経済活動もかつてなく落ち込んでいます。何よりも命の大切さを実感する日々です。亡くなられた方へ哀悼の意を表しますとともに、罹患されている方やご家族の方には一日も早い快復と平安を祈念いたします。

<2021ライブ配信から 銚子沖初日の出>



本日8日、国は都と近県3県に緊急事態宣言を施行しました。コロナ禍の第3波の只中であって今後の教育・保育活動に不安が募ります。しかし、人の営みがどうであれ、厳しい冬の後には春がやってきます。今は耐え、その先に必ずや希望の光明が来ると信じます。



今年モー！干支では丑(うし)年がやってきました。干支の十二支では植物が循環する様子を表し、その2番目に当たる丑年は、最初の年である子(ね)年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされます。牛歩で先を急がず目前のことを着実に進めることが将来の祝福につながることでしょう。牛の歩みの大切さを反すう(くり返し考え味わう)してみる機会としてはいかががでしよう。

近年の経済学の考えに、ナッジ(nudge)理論と言うものがあります。ナッジとは「肘で相手を軽くちょっと突いて注意を促す」という意味で、2017年にノーベル経済学賞を受賞した経済学者のリチャード・セイラー博士とキャス・サンステイーン教授が2008年に提唱した概念です。

にわか理解では、強い立場にある人が弱い立場にある人を強制的に導こうとする考え方とあくまでも個人の自由を尊重し、自主性に委ねる考え方の2つを融合させたものなのだから。この経済学の理論から教えられることは「小さなきっかけを与えて、人々の行動を変える戦略」です。この行動経済学で用いられる理論は教育・保育でも取り上げられています。

コロナ禍にかかわらず今、地球規模で「環境」、「難民」、「貧困」などが大きな課題です。その課題解決に対して、人類はこれまでにない非認知の力が求められています。今を好機にとらえ、困難にもめげないアイデアや発想力、失敗から学ぶ挑戦心や粘り強さなどです。幼児教育・保育の挑戦は、そんな非認知能力に富んだ子らを育てることにあります。教育者・保育者にきっかけを与える技量が求められています

結びに、今月はおゆうぎ会の行事を予定しています。子どもたちにとって実り多き月となりますよう保護者・地域関係者の皆様には、本園へのご理解とご協力をお願い申し上げます。患難の先に希望あり！！

